



教師の役者魂!!

「教師たるもの5者たれ」という言葉があります。5者とは次のことを言います。

- 「学者」… 勉強を教える人
- 「役者」… 人を惹きつけられる人
- 「芸者」… 相手が成長する環境つくれる人
- 「医者」… 相手の不安を取り除ける人
- 「易者」… 相手によりよき道を示せる人



過日の校内授業研究会の際に、磐梯二小の近野校長先生から、「役者魂」が教師に必要なであるご指導いただきました。先週、その役者魂が大いに発揮された場面がありました。6年生の国語「古典芸能の世界～演じて伝える」の授業で、渡部教頭先生と坂下先生が狂言者に扮して、まるで本物の役者のように狂言「柿山伏」を演じました。坂下先生が、そろりそろりと教室に登場すると、拍手喝采が起こりました。

狂言の面白さに触れた子どもたちは、その後グループごとに各人の役割を決めて練習し、意欲的に狂言を演じていました。まさに教師の役者魂の成果ですね。



役者に扮し、授業をする渡部教頭先生



グループで「柿山伏」を演じる子どもたち

☆☆☆欠点はあなたの素敵な個性☆☆☆

先月の職員会議で先生方に話したことです。

「たとえ、どんなに他人と違う点があったとしても、人はそれでパーフェクトだと思うのです。なぜか、それは『個性』だからです。“完璧でない”という思いは、他の人との比較から生まれる幻想だと思うのです。」

「一人一人の子どもを、ありのまま、まるごと受け止めてほしいのです。」

「欠点は、欠点ではなく、



欠点、それは自分に『欠かせない点』なのだと思います。」

自分という世界を旅できるのは自分だけです。欠点だらけの私ですが、自分が嫌だと思っている性格など、現実をまるごと味わって生きていきたいと思います。